

2022年度 土木学会選奨土木遺産 公募候補推薦調書（申込書）

記入日 2022年3月22日

候補の名称 (ふりがな)	ふくしま いしぼしぐん きゅうほらいがわばし まつかわばし じんねんぼうやま こうきょう ひろしおもて ばし 福島 の 石橋群 (旧祓川橋、松川橋、甚念坊山2号橋、広表のめがね橋、 だいけいじ いしぼし きゅうかべさわがわいしぼし みようどうばし ひがしねぎすいろきょう ふどうがわすいかんきょう 大桂寺 の 石橋、旧壁沢川石橋、明道橋、東根堰水路橋、不動川水管橋 計9橋)
完 成 年	1772～1914頃 (詳細は別添「資料1」参照)
諸元・形式等	石造桁橋 (大桂寺 の 石橋) L = 7.8m 石造アーチ橋 (その他の8橋) L = 5.1m～15.4m (詳細は別添「資料1」参照)
推 薦 理 由	<p>福島県内は、御影石等の花崗岩や磐梯石等の安山岩等良質の石材が広範囲に産出され、信州高遠藩の石工からの技術導入もあり、江戸時代の県内には石橋も施行可能な高い技術を持つ石工が存在した。</p> <p>明治期に入ると、安積疎水の建設工事により大分県の豊後石工の技術者集団の指導により十六橋水門等が建設されるとともに、県令三島通庸が赴任後には、山形県の石橋整備に関わった鹿兒島県の技術者集団を用いて県内の主要道路に石橋を整備したことにより、九州の先進的な石工技術が地元石工に伝えられ、県内の石工技術は急速な進歩を遂げた。</p> <p>この時代に本県で建設された多数の石橋は、多くが道路改築等により失われたが、県北地方を中心に未だ多数が現存し、江戸時代から明治時代にかけての様々な技術導入により発達した本県土木技術の変遷を現代に伝える貴重な文化遺産となっており、今後も未永く保全や利活用を図る必要があることから、土木学会選奨土木遺産に推薦するものである。</p>
所 在 地	ふくしまたいしどう まつかわまち わたり いいのまち だてぐんかわたまちいいごか にほんまつしひがしにどの 福島市太子堂、松川町、渡利、飯野町 伊達郡川俣町飯坂、二本松市東新殿 だてしほばらまち あいづわかまつしいつきちよう 伊達市保原町、会津若松市一箕町 (詳細は別添「資料1、資料2」参照)
管 理 者	福島市 (4橋)、大桂寺 (1橋)、川俣町教育委員会 (1橋)、二本松市 (1橋)、東根堰土地改良区 (1橋)、戸の口堰土地改良区 (1橋) 計9橋
管理者連絡先 (同意を得ている担当部署・担当課・係名まで記入)	別添「資料3」のとおり
選定された場合に実施を予定しているアピール方法 (選定前ですので、選定されたら実施したいと考えている内容で結構です)	<p>「福島の石橋群保存会」は、石橋群の保存・利活用の推進を目的に、以前より石橋の研究や愛護活動等を実施していた個人・団体により、令和4年1月28日に設立された。(別添「資料4」参照)</p> <p>選定された場合には、保存会の主催により、一般の方を対象とした見学会や、有識者を招いてのシンポジウム等を実施することにより、「福島の石橋群」の存在を広く社会にアピールしたい。</p> <p>また、石橋群の建設や石工技術の伝承に係る歴史的経緯についての研究活動を継続するとともに、管理者や地元の方々の協力を得ながら、橋周辺の清掃やメンテナンス等の愛護活動や、案内板の設置など、石橋群の保全・利活用を推進する活動等を積極的に行っていく考えである。</p>
選奨土木遺産公募に関する連絡ご担当者	〒960-1241 福島県福島市松川町字埋崎66-3 ご担当者名：福島 の 石橋群保存会会長 丹野義明

「福島の石橋群」土木学会選奨土木遺産 推薦箇所一覧

資料 1

番号	名称	場所	施設種別	管理者名	建設年次	橋梁諸元			特記事項	
						橋種	橋長 (m)	径間長 (m)		幅員 (m)
1	旧 祓 川 橋	福島市太子堂	公園施設 (信夫山公園)	福 島 市	永年間 (1772～1781) 他諸説あり (1970移築)	石造アーチ	8.5	1@5.5	3.4	羽黒神社参道 祓川に架橋、福島市指 定有形文化財 (1973)
2	松 川 橋	福島市松川町	市 道 橋	福 島 市	1885	石造アーチ	15.4	1@9.6	5.6	旧奥州街道 (R4) 旧水原川に架橋
3	甚念坊山2号橋	福島市渡利	市 道 橋	福 島 市	1885	石造アーチ	7.2	1@5.4	4.6	旧富岡街道 (R114) 大沢川に架橋
4	広表のめがね橋	福島市飯野町	市 道 橋 (暗渠)	福 島 市	1882以前	石造アーチ	5.5	1@2.5	5.3	旧川俣街道(霊山松川線) 柴切田川に架橋 飯野町百選 (2004)
5	大桂寺の石橋	福島市飯野町	民間施設 (寺参道)	大 桂 寺	1778 (1969移築)	石造桁橋	7.8	1@3 2@2.4	1.8	大桂寺参道 女神川に架橋 飯野町百選 (2004)
6	旧壁沢川石橋	川俣町飯坂	公園施設 (神前橋)	川 俣 町 教育委員会	1889 (1975移築)	石造アーチ	9	1@7.2	5.85	旧信達街道 (R349) 三百川に架橋 町指定有形文化財
7	明 道 橋	二本松市東新殿	市 道 橋	二 本 松 市	不明 (明治初期?)	石造アーチ	5.1	1@3.6	6.2 石橋部 3.2	旧 R459 平石田川に架橋
8	東根堰水路橋	伊達市保原町	農業用水路橋	東 根 堰 土地改良区	1914頃	石造アーチ	8.6	1@2.7	2.7	旧古川に架橋 土木学会近代土木遺産
9	不動川水管橋	会津若松市一箕町	農業用水路橋	戸 の 口 堰 土地改良区	不明 (明治～大正期?)	石造アーチ	7	1@4.0	3.2	不動川に架橋 土木学会近代土木遺産

土木学会選奨土木遺産の趣意と内容

* 選奨土木遺産の概要

賞の設立：平成 12 年度

対 象：交通（道路、鉄道、港湾、河川、航空、灯標）、防災（治水、防潮、防風）、農林水産業（灌漑、干拓、排水、営林、漁港）、エネルギー（発電、炭田、鉱山）、衛生（上下水道）、産業（工業用水、造船）、軍事などの用途に供された広義の土木関連施設で、原則として、竣工後 50 年を経過したもの

選考方法：支部推薦および公募の中から土木学会選奨土木遺産委員会が選考する

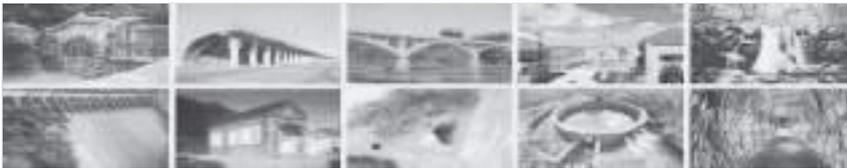
件 数：毎年 20 件程度

賞 牌：青銅製の銘板（30cm × 20cm）を授与する

* 設立の趣意

土木学会選奨土木遺産の選考は、その工学的機能と社会に果たしてきた役割、建造にあたった技術者の尽力・先見性・使命感などの点から貴重な歴史的土木構造物を選奨土木遺産として顕彰することにより、以下のことを促してその重要性を広く社会に啓発し、ひいてはその保存に資することを目的とする。

- (1) 社会へのアピール（現在も持続する又は歴史的な社会的意義・文化的価値の啓発等）
- (2) 土木技術者へのアピール（先輩技術者の尽力・先見性・使命感に対する理解、偉業に対する尊敬の念、将来の文化財創出の認識・意欲、技術者としての責任の自覚等の喚起）
- (3) まちづくりへの活用（歴史的土木構造物が地域の自然や歴史・文化の一部として地域資産であるとの認識の喚起）
- (4) 以上の観点から、失われるおそれのある貴重な歴史的土木構造物の救済・保護の必要性のアピール



土木学会選奨土木遺産

[トップページに戻る](#)

[<< prev.](#) [一覧リストに戻る](#) [next >>](#)

福島のお石橋群

あぐしまのいしはしぐん

福島県福島市、他



福島のお石橋群は、近世から明治期に伝承された信州や九州の石工技術と地元の石工が磨き育てた歴史を顕微できる貴重な土木遺産群です。

竣工年：1772(安永元)年～1914(大正3)年と推定

令和4年度選奨土木遺産

[<< prev.](#) [一覧リストに戻る](#) [next >>](#)

いいね！ 0

[ツイート](#)

© Japan Society of Civil Engineers

公益社団法人 土木学会HP

https://www.jsce.or.jp/contents/isan/files/2022_04.shtml

「福島 of 石橋群保存会」 of 土木学会選奨土木遺産シンポジウム 開催に至る経緯

福島 of 石橋群保存会

年	月 日	経 緯
令和3年	9月24日	東北土木遺産研究所長 後藤先生と福島市松川町内有志が松川橋を調査
	11月 5日	後藤先生福島県北建設事務所、松川町内有志による松川橋調査
	12月10日	「福島 of 石橋群保存会」設立準備会開催
令和4年	1月28日	「福島 of 石橋群保存会」設立総会
	1月30日	「旧壁沢川石橋」 of 土木遺産認定申請に関する川俣町小手姫神社氏子会説明
	2月20日	「大桂寺 of 石橋」 of 土木遺産認定申請に関する大桂寺住職説明
	2月24日	「東根堰水路橋」 of 土木遺産認定申請に関する東根堰土地改良区説明
	3月 3日	「明道橋」 of 土木遺産認定申請に関する二本松市説明
	3月22日	推薦調書を土木学会に提出
	5月 2日	「不動川水管橋」 of 土木遺産認定申請に関する戸 of 口堰土地改良区説明
	6月13日	積雪で調査未了であった戸 of 口堰水管橋を追加した推薦調書を土木学会に提出
	9月10日	令和4年度福島 of 石橋群保存会総会開催
	9月12日	土木学会理事会において「福島 of 石橋群」が選奨土木遺産に認定
	11月18日	福島 of 石橋群保存会が土木遺産認定報告会を開催
	12月23日	川俣町で「旧壁沢川石橋」土木学会選奨土木遺産認定報告会開催
令和5年	4月 2日	松川橋で土木遺産銘板設置完成披露式開催（松川町づくり委員会21主催）
	9月11日	福島 of 石橋群保存会第2回総会開催
	10月 4日	山形 of 石橋群見学会
	11月 1日	甚念坊山2号橋草刈り・周辺整備
	11月 8日	飯野町（広表 of めがね橋）土木遺産銘板設置完成披露式
	11月18日	「福島 of 石橋群」現地見学会開催
	11月19日	「福島 of 石橋群」土木学会選奨土木遺産認定記念シンポジウム開催

「福島の石橋群」
土木学会選奨土木遺産認定記念シンポジウム

石橋群が紡ぐ 歴史・ひと・地域

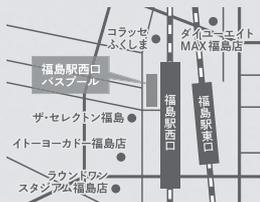
2023
11/18(土)・19(日)

参加費 / 無料

現地見学会 / 11月18日(土)

集合 13:00
解散 16:00 (予定)

松川橋ほか6橋を回ります。
福島駅西口バスプール
集合・解散



行程

松川橋 → 広表のめがね橋 → 大桂寺の石橋 →
旧壁沢川石橋 → 甚念坊山2号橋 → 旧祓川橋

シンポジウム / 11月19日(日)

開場 12:30
開会 13:15 閉会 16:00

福島県建設センター2階
大会議室
(福島市五月町4番25号)



※現地開催とオンライン配信を組み
合わせたハイブリッド開催となり
ます。
※駐車台数には限りがありますので、
できるだけ公共交通機関でお越し
ください。

オンライン
配信サイト
(ライブ配信)



開催日時以降ご覧になれます



基調講演

「近代土木遺産の技術的及び歴史的価値」

講師 知野 泰明氏

(日本大学工学部准教授)

主催 / 福島の石橋群保存会 共催 / 福島市、二本松市、川俣町

協賛 (一社) 東北地域づくり協会、(一社) 福島県建設業協会、(一社) 福島県測量設計業協会、福島県橋友会、松川町観光協会、
飯野町観光協会

後援 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所、福島県県北地方振興局、(公社) 土木学会東北支部、東根堰土地改良区、
戸の口堰土地改良区、日本の石橋を守る会、東北街道会議、歴史の道土木遺産万世大路保存会、ふくしまけん街道交流会、
(株)福島民報社、福島民友新聞(株)、(株)福島建設工業新聞社、NHK 福島放送局、福島テレビ(株)、(株)福島中央テレビ、(株)福島放送、
(株)テレビユー福島、(株)ラジオ福島、(株)エフエム福島

令和5年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)補助対象事業

現地見学会 / 11月18日(土)

13:00 福島駅西口バスターミナル集合、16:00 解散

行程

松川橋 → 広表のめがね橋 → 大桂寺の石橋 → 旧壁沢川石橋 → 甚念坊山2号橋
→ 旧祓川橋 (2台のバスに分乗し見学しますが、駐車場の関係で1台は逆のコースで回ります)

シンポジウム / 11月19日(日)

開場 12:30 開会 13:15 閉会 16:00

プログラム

- 1 主催者あいさつ 福島 of 石橋群保存会会長 丹野 義明
- 2 来賓あいさつ 福島市長 木幡 浩
国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所長 丸山 和基
福島県土木部長 曳地 利光
- 3 土木遺産認定経過報告 福島 of 石橋群保存会顧問 相澤 広志
- 4 基調講演

「近代土木遺産の技術的及び歴史的価値」

日本大学工学部准教授 知野 泰明

講師紹介

新潟大学大学院博士課程卒業、専門は景観工学、土木史・国土形成史。

2007年より日本大学准教授に就任、現在に至る。

福島県景観審議会委員など行政機関の各種委員を歴任、2023年からは土木学会選奨土木遺産委員会委員長を務める。



休憩 (14:40～14:50)

5 パネルディスカッション

テーマ「石橋群が紡ぐ歴史・ひと・地域」

コーディネーター 日本大学准教授 知野 泰明

アドバイザー 国土交通省福島河川国道事務所長 丸山 和基

パネリスト 東北土木遺産研究所所長 後藤 光亀

歴史の道土木遺産萬世大路保存会会長 梅津 幸保

ふくしまけん街道交流会事務局 山口 裕子

福島市立第一中学校教諭 齊藤 まつみ

熊本県山都町教育委員会生涯学習課学芸員 大津山 恭子



国土交通省福島河川国道事務所長
丸山 和基



東北土木遺産研究所所長
後藤 光亀



歴史の道土木遺産萬世大路保存会会長
梅津 幸保



ふくしまけん街道交流会事務局
山口 裕子



福島市立第一中学校教諭
齊藤 まつみ



熊本県山都町教育委員会生涯学習課学芸員
大津山 恭子